

中部国際空港の需要喚起に資する 地元経済界の取組について

2021年12月8日

 名古屋商工会議所

 一般社団法人
中部経済連合会

セントレアと中部地域の発展のために

地元経済界はセントレアの発展、ひいては中部地域の発展のため中部国際空港利用促進協議会や産官で連携した活動等によりセントレアの需要喚起に取り組んでいる

- ・ モノづくりで日本経済をけん引する中部地域が、将来に亘って引き続き国際競争力を維持するためには、当地域の海外との玄関口であるセントレアの安定運用と航空ネットワークの維持・拡大が重要。
- ・ セントレアの安定運用と航空ネットワークの維持・拡大のためには、①滑走路の経年劣化、②インバウンド需要への対応、③主要空港の代替空港、④スーパー・メガリージョン形成という4つの観点から、第二滑走路の早期整備が必要。
- ・ また、主要な国際空港で、複数の滑走路を持たないのはセントレアのみであり、現状では24時間運営の国際空港として未完成。

経済界の取組の概要

セントレアの就航便を増やしたい

「旅客」の利用を促進

- フライ・セントレア事業
- 訪日プロモーション地方連携事業
- インバウンド施策フォロー事業
- 国内線利用促進事業
- 若年層渡航促進事業
- セントレアキッズクラブ
- 空の絵コンテスト
- 空港アクセス拡大支援事業

「貨物」の利用を促進

- フライ・セントレア・カーゴ事業
 - ・ フレイターレギュラー貨物搭載プラン
 - ・ 大型貨物搭載促進プラン
 - ・ 切替促進プラン
 - ・ 農水産物・食品輸出支援
 - ・ トラック共同輸送支援
 - ・ 拠点化・ビジネスモデル構築支援

ほか

(エアラインに直接的に) 新規就航・増便を促進

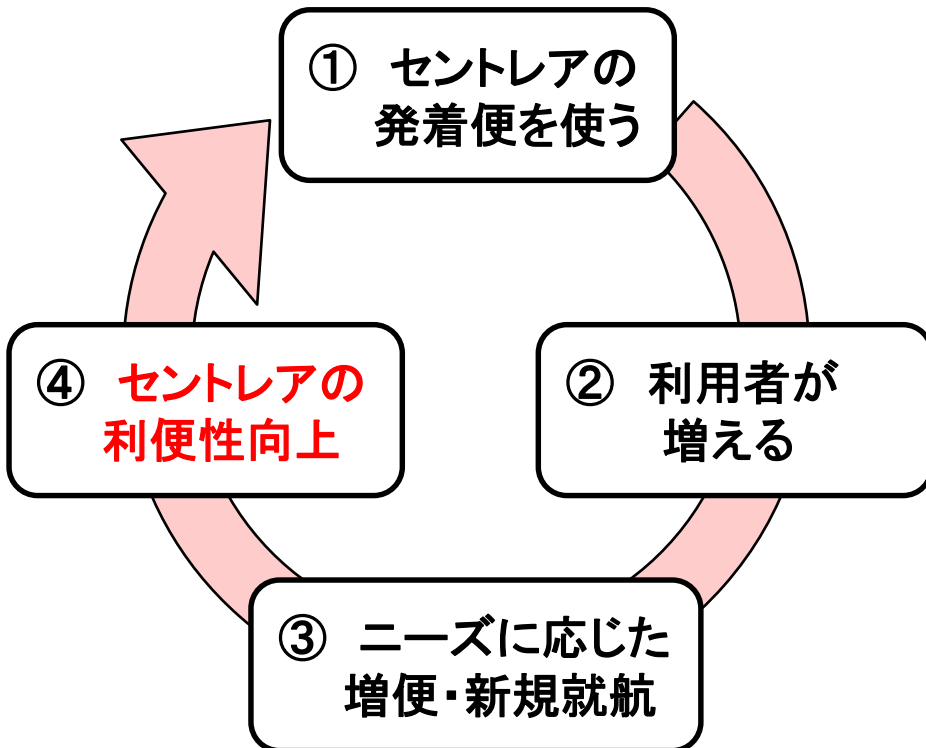
- エアポートセールス
- 新規就航・復便、路線維持等の要請レター発出
- 各種要請書(国際線の早期復便等)発出
- 中部地区企業ビジネス旅客動態調査
- フライ・セントレア意見交換会
- 地域特性を踏まえた航空会社との連携事業

※ 上記の取組は、これまで実施してきた活動の一例

フライ・セントレア（FC）、フライ・セントレア・カーゴ（FCC）

- 「フライ・セントレア（旅客便）」と「フライ・セントレア・カーゴ（貨物便）」は、ともにセントレア就航便の優先利用を促すもの。これらにより、セントレア就航便の増便・新規就航を図っている。

【FC・FCCのイメージ】



《エアライン》

需要（利用）があれば増便・新規就航

《空港利用者》

利便性が高ければセントレアを利用



中部地域の旺盛なビジネス需要を首都圏に流出させることなくセントレア発着便に取込み、増便・新規就航につなげる



まずは地域の方々にセントレアを使ってもらうことで、増便・新規就航を促し、これにより利便性を向上する「好循環」を生み出したい

1. 「旅客」利用を促進する事業

【ご参考】取組事例

フライ・セントレア事業

「フライ・セントレア」は、セントレアの優先利用を推進するもの。「会員企業に対するセントレア優先利用の要請」や、「広報誌や各種会合での露出強化」など、名古屋商工会議所、中部経済連合会の会員企業に対する協力要請を実施。



中部国際空港利用促進協議会からのお知らせ

セントレアからの直行便に加え、さらに海外空港で乗り継ぎ便を活用すれば、ますます便利に世界中の都市へ！

滞任・赴任や業務出張の際には、**セントレア発着便の積極利用**を！

最新の乗り継ぎ時刻表や帰国時のサービスなどはセントレア乗り継ぎコンシェルジュサービスへ

1. 運航先に応じた最適な航空便のご案内および乗継便の案内
2. 各航空会社の空港案内係と連携したスムーズな乗継便案内

乗継先：セントレア/名古屋/セントレア (02JTB)
乗継先：東京/大阪/福岡/札幌/仙台/札幌 (10-00-17:30 JST)
乗継先：札幌 (05:00-17:30 JST)
お問い合わせ：CentralJapan_TravelCenter@cpj.co.jp

デルタ航空デトロイト線 4月4日運航再開

デトロイトも経由して安航75分前以上へ

航空会社	出発	到着	機材	乗継機材
DLH	午後 17:00発	午前 10時 16分着	空機	A330-300
DLG	午前 11:25発	午後 18時 15分着	空機	A330-300



セントレアでの新型コロナウイルス対策

新しい空港利用の11のポイント

中部国際空港セントレアでは、新型コロナウイルス感染症対策の取り組みをお客様へ「新しい空港利用の11のポイント」としてご案内しています。

状況の変化などに従い対策内容を見直しながら、感染症対策を実施していますので、安心して空港・航空機をご利用いただけます。詳しい内容はQRコードからご覧ください。

中部国際空港 乗継センター
セントレア1-1
TEL: 0569-38-1195

昨年度は、セントレア発の国際線を利用し、海外での乗り継ぎ便を利用して海外渡航をされる方に対し、航空便に関する問い合わせ対応や帰国時のホテル手配などを実施する「セントレア国際線コンシェルジュサービス」を開始。第1ターミナル2階「セントラルジャパン トラベルセンター」内に相談窓口を設置。



セントラルジャパン トラベルセンター

空港アクセス拡大支援事業

バス等の空港交通の充実や、交通事業者間や交通事業者と航空会社連携による周遊の仕組みづくりを後押しすることを目的に、セントレアを発着する交通機関の路線・取組に対して広告費等を支援。新型コロナの影響により現在は実施出来ないが、回復期には取組を強化することを検討したい。



名古屋市内(名古屋駅)から中部国際空港

セントレア リムジン

CENTRAIR LIMOUSINE

早朝便 (平日限定) 予約不要 乗降なし Airport Check

乗継専用バス

所要時間 約1時間20分

料金 片道 1,200円 ~ 7,600円

予約受付 0569-38-1195

セントレアリムジン増便の案内チラシ



この街から直接 海へ

バスで直行

名古屋駅(西口)から 中部国際空港

片道約 55分 空港までダイレクト

料金 片道 1,500円 ~ 750円

予約受付 0569-38-1195

名古屋駅 = セントレア線

セントレアキッズクラブ事業

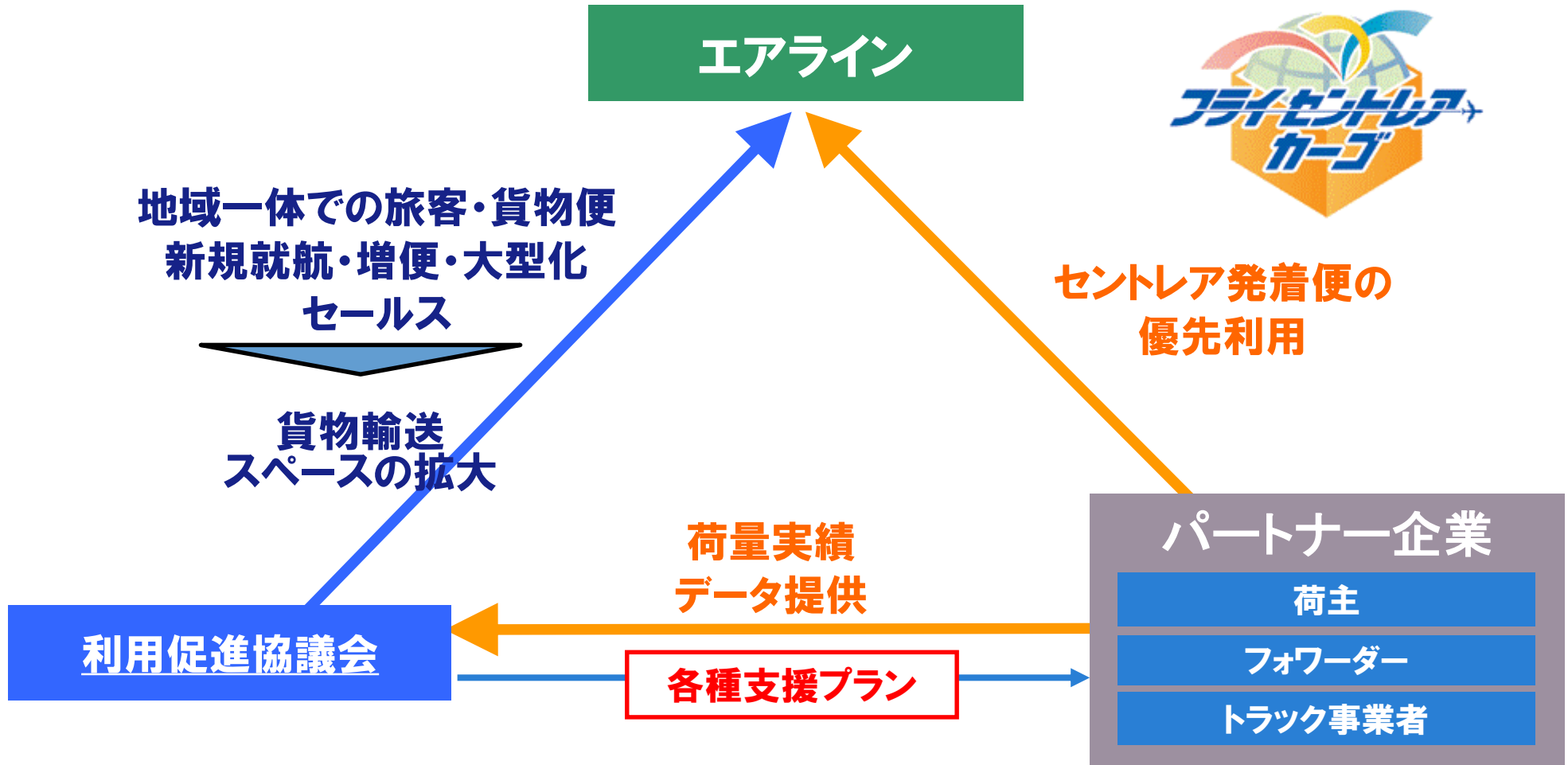
将来の航空機利用者である若年層を対象に、空港・航空を親しむ イベントの開催や、海外渡航を後押しするプロモーションを展開。昨年、セントレア開港15周年を期に、会員資格やサービス内容などを見直し、コミュニケーションアプリLINEを新たに活用したクーポンの配布など、オンラインでの取組を強化しリニューアルした。今年度は滑走路見学ツアー、航空教室、キーワードラリーなど来港を促進。



春の滑走路見学ツアー

II. 「貨物」利用を促進する事業

国際貨物の輸送ネットワークの充実を図るため
地域企業が一丸となり、セントレア発着便を優先利用していく活動



活動の主旨に賛同する企業を「パートナー企業」として随時募集

パートナー企業数 457社（荷主385社、フォワーダー38社、トラック事業者34社）※2021年10月時点

III.新規就航・増便を促進する事業

【ご参考】取組事例

エアポートセールス

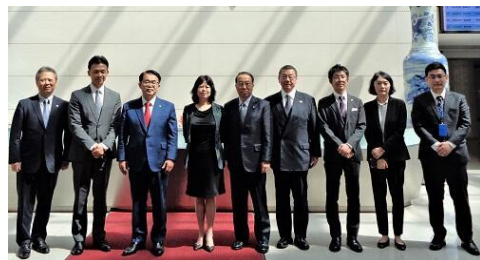
自治体の首長、空港会社幹部等とともに、新規就航・復便、路線維持やセントレアのさらなる活用などについて要請する「エアポートセールス」を実施。



DHL社への訪問



ベトナム航空との面談



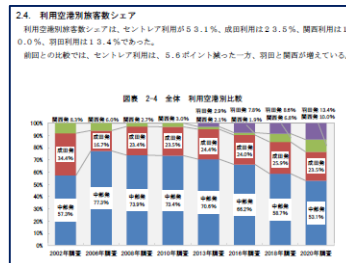
中国エアポートセールス

新規就航・復便・路線維持等の要請レター発出

エアラインに対して、セントレアへの新規就航・復便、路線維持を要請するレターを発出。具体的な路線について直接要請するものであり、セントレアの路線拡大・維持に繋がっている。

中部地区企業ビジネス旅客動態調査

中部地区に本社または活動拠点を置く企業の海外出張について、行き先別、出発地空港別、利用航空券別の人数を把握することにより、中部地区企業のビジネス旅客の実態を把握すると共に、セントレアの利用促進をはかる上での論点及び課題を整理し、新規路線誘致及び既存路線の増便に繋げることを目的に調査を実施。



フライ・セントレア意見交換会

中部圏に拠点を置く企業の総務・人事・秘書部門の方と、セントレア就航エアラインが一堂に会する意見交換会を開催。地域のニーズをエアラインへ直接お伝えし、新規就航・復便、路線維持を促すと共にエアラインのPRの機会を創出。

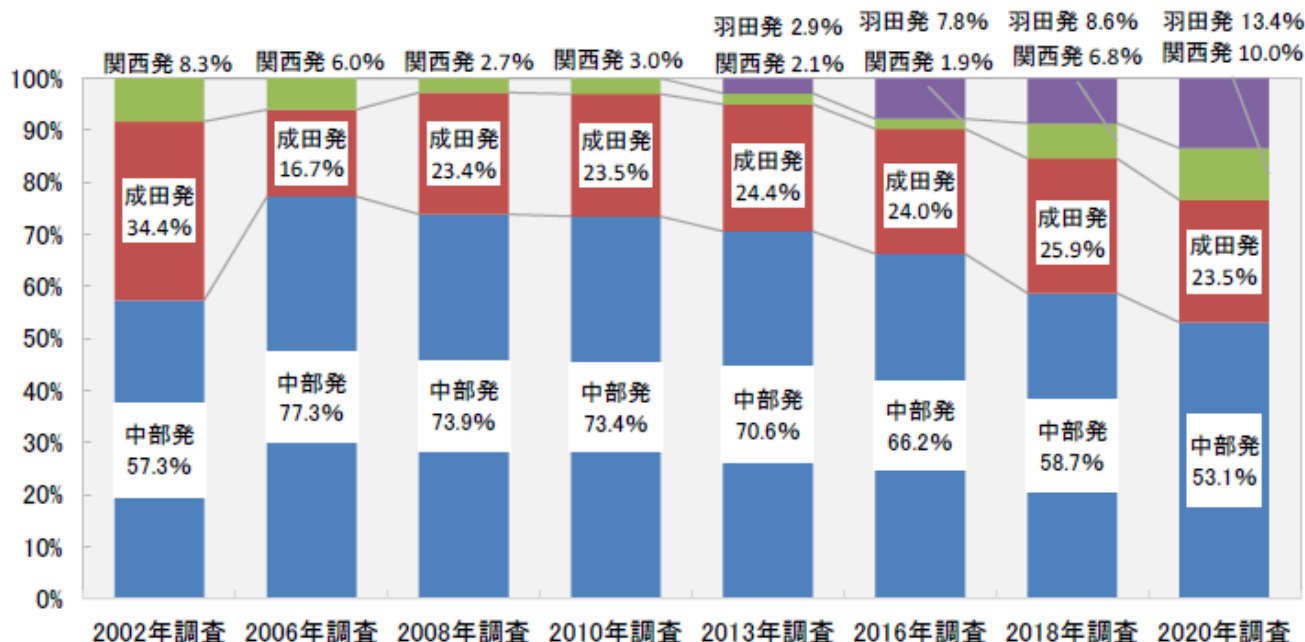


フライ・セントレア意見交換会の様子

セントレア利用率の現状（中部地区企業ビジネス旅客動態調査）

- ・ セントレア開港以来、フライ・セントレアを推進。一定程度認知され、海外渡航時のセントレア優先利用意識が醸成された。
- ・ 一方で、「[中部地区企業ビジネス旅客動態調査\(利促協実施\)](#)」によると、セントレア利用率は2006年調査以降低下しており、2020年調査では53.1%となった。

中部地区企業（※1）ビジネス旅客の利用空港別比較



出所：中部国際空港利用促進協議会「第8回中部地区企業ビジネス旅客動態調査」

※1 2020年調査では81社にご回答頂いた

国際貨物取扱量の現状

- 国際線貨物においては、2012年度以降、国際貨物の取扱量は徐々に増加していたが、米中貿易摩擦の影響から世界中で航空貨物が減少する中、2019年度は取扱量が減少。
 - 2020年度は、順位としては全国4位だが、3位の羽田空港の1/3程度の量となっている。
- ⇒貨物専用便だけでなく、旅客便の復便・増便・新規就航を促すことで国際貨物取扱量の増加を図りたい。

国際貨物取扱量

順位	2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度		
	空港	取扱量 (トン)	シェア (%)	空港	取扱量 (トン)	シェア (%)	空港	取扱量 (トン)	シェア (%)	空港	取扱量 (トン)	シェア (%)	空港	取扱量 (トン)	シェア (%)
1	成田国際	2,140,075	56.5	成田国際	2,282,097	55.3	成田国際	2,129,597	54.1	成田国際	2,045,279	55.3	成田国際	2,087,657	63.8
2	関西国際	735,238	19.4	関西国際	831,694	20.1	関西国際	797,436	20.3	関西国際	742,155	20.1	関西国際	716,269	21.9
3	東京国際	457,540	12.1	東京国際	553,519	13.4	東京国際	581,757	14.8	東京国際	562,353	15.2	東京国際	307,062	9.4
4	那覇	196,606	5.2	那覇	180,050	4.4	中部国際	194,672	4.9	中部国際	172,313	4.7	中部国際	103,575	3.2
5	中部国際	165,615	4.4	中部国際	179,982	4.4	那覇	120,174	3.1	那覇	100,024	2.7	福岡	21,243	0.6
6	福岡	59,257	1.6	福岡	63,792	1.5	福岡	62,755	1.6	福岡	46,990	1.3	北九州	13,678	0.4
7	小松	14,756	0.4	新千歳	16,931	0.4	新千歳	23,037	0.6	新千歳	16,118	0.4	新千歳	12,714	0.4
8	新千歳	10,515	0.3	小松	15,821	0.4	小松	16,295	0.4	小松	5,644	0.2	小松	5,570	0.2
9	北九州	2,407	0.1	佐賀	1,893	0.0	北九州	4,548	0.1	北九州	5,263	0.1	那覇	1,146	0.0
10	佐賀	1,688	0.0	鹿児島	1,448	0.0	鹿児島	1,658	0.0	鹿児島	1,723	0.0	鹿児島	753	0.0

出所:国土交通省「空港管理状況」から加工

今後の取組について

- ・ 地元経済界としては、「セントレアの機能強化は、中部地域の発展に直結することに加え、首都圏や関西圏空港のバックアップ機能強化につながり、我が国の発展に寄与する」と考えている。
- ・ これまで実施してきた施策の強化とさらなる創意工夫による効果的な施策の実施によって、需要喚起に繋げたい。

(例) フライ・セントレア・パートナーズ※の取組、エアポートセールスの拡充 等

※来年1月（予定）から「フライ・セントレア・パートナーズ」を開始。

中部地域の旺盛なビジネス需要を首都圏に流出させることなくセントレア発着便に取込むため、フライ・セントレアの趣旨に賛同頂ける企業に入会を呼びかけ。これにより、①国際線及び国内線のF Cの意識向上、②エアラインに対して地域一丸となった協力姿勢を示す、③賛同企業を対象に需要動向調査実施し利用促進策や路線交渉等に活用、の3点を図り、セントレアの復便、路線維持・拡大に向けた活動を強化。

今後も地元経済界はセントレアを支援するために

需要喚起に資する取組を強化する